

「パブリックリーダースクール」として、中高の希望者に対し、社会的課題の解決に向けて世界で活躍されてきた方々による講演と、国内の政治・行政の中枢である永田町・霞が関への探訪を実施しました。

8月2日と4日に行われた講演は、国連やWHO、UNHCRなどの国際機関で勤務されてきた6名の方を講師にお迎えして実施しました。講師の方には、貧困や飢餓、福祉、教育、ジェンダー平等、水問題など、それぞれが取り組まれているテーマについて詳しく教えていただくとともに、どのような経緯で世界を舞台に働くことになったのかなど、個人的なお話も伺うことができ、大変有意義な時間となりました。

8月3日に実施した永田町・霞が関探訪には、抽選で選ばれた中1から高2までの生徒42名と校長・教員2名の45名が参加しました。

当日はまず、霞が関ビルの向かいにある領土・主権展示館を訪問。北方領土、竹島、尖閣諸島など、日本を取り巻く領土・主権問題について専門家から解説をお聞きするとともに、展示を見せていただきました。

次に、霞が関の官庁街を歩いて移動し、昼食を兼ねて農林水産省を訪問しました。玄関に並んでいた際、たまたま通りかかれた農林水産大臣に声をかけていただきました。職員食堂で昼食をいただいた際、メニューごとに、食料自給率が書かれていることに生徒は驚いていました。

その後、生徒の希望に応じて3班に分かれ、法務省、厚生労働省、経済産業省内を見学させていただき、それぞれの省庁の業務内容や雰囲気を感じることができました。

最後に、国会議事堂を訪問しました。最初に、衛視さんに本会議場や天皇陛下の御休所、中央広間などを案内していただき、生徒たちは厳かな雰囲気に圧倒されていました。続いて、実際に審議された少年法改正案を題材として、立法のプロセスを擬似体験させていただきました。特に、議長、委員長、大臣、副大臣、委員役に選ばれた生徒は、緊張しながらも、それぞれの役割を立派に果たしていました。



国連難民高等弁務官



緒方貞子

第8代国連難民高等弁務官
(在任期間 1991年～2000年)

日本人かつ女性で初めて、
国連難民高等弁務官として活躍。

国連難民高等弁務官協会
UNHCR











